聖書の言葉
平和を実現する人たちは
幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる。
マタイによる福音書5章9節

シャローム タイムズ

2003年8月10日（日）発行
宗教法人
野毛山キリストの教会
〒220－0042　横浜市西区老松町30番地

平和聖日

去る八月三日（第一主日）野毛山キリストの教会の平和聖日として礼拝を献げました。

「実にキリストは私たちの平和であります」と金児栄治牧師の礼拝のメッセージでは、戦争の恐ろしさを改めて知りました。「日本人が南京で二十万人もの多くの人たちを虐殺したこと、ナチスドイツがユダヤ人やシプシーを大量虐殺したこと、そして、広島・長崎に世界ではじめて原爆が落とされ、多くの命が奪われたことは忘れてはいけません。戦争が人間を異常にしてしまいます。正義と自由と信仰をしっかり持ち、神さまとの関係を確立することが大切で一人ひとりがピースメーカーとして役割を果たして行きましょう」との力強いメッセージをいただきました。

午後の「平和を語る会」では、戦争を体験された方、戦争を知らない世代の方々の話をうかがい、教会学校の子どもたちが、サマーバイブルスクールで学んだことを発表してくれました。どの世代も、「平和」について考え、キリストによる真の平和を祈る大変よい会となりましたことを感謝いたします。

また、今年は、終戦の時に何をしていたか、平和に関するアンケートを出していただきました。大変貴重なお答えをいただきましたので、一冊の冊子にまとめました。文章になって残るということはとても大切なことです。このシャロームタイムズと、また、教会学校のサマーバイブルスクール特集号とあわせてお読みください。

（参加者六一人）

戦争を体験された方のお話より

長坂　悦子

この「平和を語る会」に、小さい方がたくさんお集まり下さいましたこと、嬉しく思います。若い方たちは、「戦争」という文字はわかっていらしても、本当にどういう状態だったかということがおわかりにならないと思います。ここにいらっしゃる小さい方たちのおじいさまよりも、もっと年上の今年八十三歳になりました主人から聞いた、戦闘に加わった時の話を少しお伝えしたいと思います。

昭和十八年十二月、二十歳以上の文科系学生が、軍隊に入ることになりました。大学三年の主人は海軍へ、大学一年の弟は陸軍へと分かれました。主人は、海軍の士官試験に合格し、一年間の厳しい訓練を経て、昭和十九年十二月、海軍少尉として、敵の潜水艦攻撃のため海防艦に乗り込み、アメリカの潜水艦を1隻沈めましたが、昭和二〇年五月一日、敵の魚雷攻撃を受け、船は後ろ部分から沈みはじめ、一六歳～二〇歳位までの部下一〇人以上が戦死しました。船は沈みつつも、別の日本の船に引っ張られて完全沈没はまぬがれましたが、海に散った若者の事は終始忘れられないと、常に聞かされています。

一方、陸軍の弟は、終戦の八月一五日の前日の夕方、ソ満国境で、ソ連軍の攻撃に遭い、戦死しました。ソ連は「日ソ不可侵条約（日本とソ連とはお互いに戦わないという約束）」を踏みにじったのです。弟が亡くなって以来、主人の母は、八十四歳で亡くなる最近まで、彼の小さな写真をハンドバックと手さげ一つに入れて、いつも持ち歩いていたことが判りました。

【食料について】

戦時中、近くの笹やぶを隣り組全員で耕して、食糧不足を補うための野菜作りを始めました。馬鈴署、玉ねぎ、かぼちゃ、さつま芋、人参、茄子、トマト、豆など、あらゆるものに挑戦し、その結果、一時は物置の棚に並んだかぼちゃの数は三〇個を越すほどになったこともあります。それがまた、暗い戦時中の唯一楽しかった話題の一つとして役立ったこともあります。

さつま芋のつる、かぼちゃの茎などは、思いの他おいしいものの一つになりました。主食のお米、麦などはまともに手に入らず、うすいおかゆの中はさつま芋がゴロゴロと場所を占め、そのかげに見えかくれするお米は、まことにあわれなものがありました。しかし、こんな食生活の中にあっても、ひたすら野菜の世話をして、生活に張りを持たせようとがんばっていた一六歳の少女の生き甲斐は、どこに宿っていたのかと思います。今日この頃、全ての物があふれ、自由である筈なのに、感謝の心を忘れている人々のいかに多い事か……。

私は今思います。神様により近いところで、よりよい環境に置かれている私たちは、耐える力、努力する力を、いつも感謝の祈りの中に加えていきたいと思っています。

戦争を知らない世代の方のお話より

富永　優子

私は戦争を知りません。学校も戦争について、何も教えてはくれませんでした。三学期のテストのために大事な言葉を覚えておくようにと先生から言われ、「太平洋戦争」「長崎」「広島」「原爆」など、暗記したのを覚えています。ですから、私が得た戦争の知識というのは、八月になるとはじまる、戦争を題材にしたテレビ番組や、本屋さんの店頭に並べられる本から得たものばかりです。ですから、今日いただいたシャロームタイムズにあまりかわりがないような、もしかしたら子どもたちのほうがもっと深く、戦争と平和を考えているように思います。そんな私でも、母親となり、決めたことが二つあります。迷彩柄の洋服を着せないこと、拳銃のおもちゃを与えないことです。今時、そんなことにこだわるのは自分でもおかしいとは思いますが、それが、私から子どもへのメッセージのひとつです。その柄の服を着て多くの兵隊が戦争をし、死んでいったこと。拳銃は、人を殺すための道具の一つであること。戦争を知らない世代のほとんどが親である今、その親である世代も、戦時中は私たちの子どもと同じ年くらいの子どもでした。記憶はおぼろげであるかもしれませんが、どうぞ私たちに、あの時の戦争の恐ろしさ、食べるのに困ったこと、大切な人を亡くした悲しみを教えてください。それを子どもたちに伝えていくことが、戦争を知らない私たちの役目だと思っています。

平和を語る会がいつまでも続きますことを願います。

中二　百瀬　杏奈

ジュニアチャーチでは、サマーバイブルスクールやクリスマスなどで、「いのち」についてみんなで考えました。まず、平和ってどんなことなのか考えました。戦争によって自分自身や愛する人たちが傷ついたり命を失わないこと、朝不安なく目覚めることができること、友だちと遊んだりできること、などの意見が挙がりました。次に、今の世界は平和かどうか考えました。みんなは平和ではないという答えでした。戦争によって傷ついたり、命を失っている人もたくさんいるし、私たちの知らないところで、飢えや貧しさに苦しんで、そのために亡くなっている人もいます。また、日本は戦争もなく、一見平和そうに見えるけれど、実際には、この間起きた長崎の事件のように、人の命を大切にしないような犯罪がおきています。では、どうすれば世の中が平和になるかを考えました。まずは、神さまがありのままの自分を愛してくださることを知ることが大切だと思います。「どうせ私なんて…」とか、時々思ってしまうことがあります。でも、神さまはひとりひとりを愛してくださいます。次に、自分らしく生き、自分を大切にすることです。周りの人と同じにならなきゃと、自分らしさを失う必要はないのです。何故なら、人それぞれ神さまからいただいている賜物が違うからです。だから、みんな違って当たり前だと思います。自分を大切にできれば、隣人も大切にできるとも思います。そして、それぞれの良さを大切にしながら、認め合うように努力することだと思います。このことを実行するのは大変だと思うし、世界中の人々が行わなければ、平和にはなりません。とても時間がかかると思います。でも、私たちがピースメーカーとなって、平和の輪を少しでも広げられればいいなと思います。聖書に「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」と書かれていました。地球上のすべての人に、イエス様による本当の平和がくるように祈りましょう。